令和５年度　社会福祉法人　開成会　事業計画

昨今の社会経済情勢に伴う物価高騰や新型コロナウイルス感染症予防対策の政策等を見直す方向性が示され、社会福祉法人を取り巻く経営環境状況は厳しいものとなっております。

さて、令和５年度は、できるだけムダを減らすなど“節約”を無理なく行うこととし、また新型コロナウイルス感染予防対策の見直しに対応して、各施設に於いては、クラスター等防止対策は継続しつつ、利用者の検温、マスク着用等、感染予防対策の措置の周知など基本的な感染予防に努めたいと存じます。

このような状況の中、利用者の自立と利用者の安全配慮を両立させた質の高い福祉サービスの提供とそれを支える経営基盤の強化に取り組んで参ります。

さらに、法人としては事業の多角化など新たな事業展開により、経営のガバナンスの強化に取り組むとともに、職員に対しては、モチベーションの高揚を図るとともに資質向上と魅力ある職場環境づくりに努めたいと存じます。

本年度は、理事・監事の任期満了に伴う改選の年に当たり、次期役員等の選任をいたします。

また、障害者虐待防止法に基づき、虐待防止の更なる推進に努め、利用者が安全で快適な生活が送れるように支援いたします。

令和５年度　大藤園　事業計画

令和５年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防と対策を継続し、事業を実施して参りたいと存じます。

主な年間行事は、9 月大藤園まつり、10 月一泊旅行、令和６年１月新年会等を予定し、新型コロナウイルス感染症の状況に配慮して対応していきたいと存じます。

施設運営については、基本理念と支援方針に基づいて、生活介護事業に相応しいカリキュラムのより一層の充実を行い、利用者一人ひとりが、安全で安心して豊かな生活が送れる環境を整備したいと存じます。

また、支援体制は、昨年に引き続き職員が「チーム」体制で対応し、職員誰もが利用者一人ひとりに対して支援とコミュニケーションがとれるようにいたします。今までの支援を継続するとともに、さらに豊かな支援に取り組むよう工夫して、利用率が向上するように努めたいと存じます。

開園日は、１年間で休園日を振り分けて、年間２７０日（休園日９６日）で営業することといたします。

１．　報酬と支援区分及び利用者の状況

①　生活介護サービス費（報酬）

支援区分	６	５	４	３
単位	１，１０８	８２０	５６２	４９６

（１単位は１０円）

②　利用者の支援区分

（令和５年４月１日現在）

支援区分	６	５	４	３	合計
男性（人）	３（3）	14（13）	14（14）	６（6）	３７（36）
女性（〃）	０（0）	４（4）	12（11）	４（4）	２０（19）
合計（〃）	３（3）	18（17）	26（25）	10（10）	５７（55）

※　（ただし週１日利用者Ａ　支援区分６あり）　　（　）は令和４年度末人数

□　利用者の動静について

令和５年度は、令和４年度末の利用者数５５名から令和５年４月１日に新たに男性利用者１名（支援区分５）、女性利用者１名（支援区分４）が通園するので５７名のスタートとなる。

なお、週１日の利用者１名が通園しているので、延契約者数は５８名。

※利用者の状況

区分	内容
平均年齢	３６歳６ヵ月
平均通所年数	１７年１カ月
障害の程度（総合判定）	知的障害者（療育手帳Ａ判定 31 人、Ｂ判定 24 人不明２人）
その他	重度障害者支援加算該当者 14 人 半数程度の者がダウン症、自閉症傾向にある者 てんかん 12 人

２．職員体制　　（令和５年４月１日現在）

職員の人数については、前年度末に生活支援員１名、栄養士 １ 名が退職し、令和５年４月１日に栄養士１名を採用したので下記のとおりの人数である。なお、生活支援員の補充はしない。

□ 令和５年度は、職員総数　２５名

＜常勤職員１４名・パート職員（１１名）＞

＜内訳＞

園長（事務長兼務）　１名

サービス管理責任者（常勤専従）　１名

生活支援員　常　勤 １１名

パート　(3)名

(内訳)

常勤正規職員（専従１０名の内　１名は事務職員兼務）	10 名
常勤再雇用職員（１年有期雇用）	１名
パート　職員	(3 名)

栄養士（常勤専従）　１名

看護師（パート）　(1 名)

調理員（パート）　(2 名)

運転手（パート）　(5 名)

＊医師については、嘱託医（浜田内科クリニック）に委託している。

３．支援計画等

別冊　「令和５年度年間支援計画書」のとおり

４．予算編成について

（収入の部）

① 給付費収入は、利用者 58 名（57 名＋週１日１名）を支援区分ごとに積算し、利用率 85%として予算計上した。

（支出の部）

① 人件費支出は、職員総数 25 名（常勤 14 名・パート 11 名）で予算計上した。

② 事業費、事務費支出は、前年度実績額を基に積算し、予算計上した。

③ 令和５年度資金収支予算（案）で、当期資金収支差額 230 千円となった。

④ 社会福祉充実計画は、新たに計画（令和５年度～令和９年度５年間）するため当初予算に計上しなかった。